

XVII. 慢性疼痛集学的治療チーム

慢性疼痛は全成人の約30%が罹患しているとされており、わが国の健康損失の原因にもなっている。痛みは慢性化するに伴い、罹患部位の器質的異常や身体機能だけの問題ではなくなり、精神医学的要因、心理学的要因、社会的要因が複雑に絡み合い、症状を増悪させ遷延させる。そのため慢性疼痛治療においては、医師とメディカルスタッフによる総合的かつ集学的な対応が求められ、患者さん個々の背景に合わせたきめ細かい治療内容、治療目標等を設定した集学的治療が必要である。

このような背景から、2022年4月から慢性疼痛集学的治療チームを立ち上げ活動を開始した。2022年度はチーム構成員や活動内容について調整を行い、介入件数は28件であった。患者さんと医療者の間で問題を共有し、問題解決できるよう介入することで行動変容につながった事例が多くみられた。また、厚生労働省主催の慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業 - 近畿地区に参画しており、その活動の一環として慢性疼痛に携わる医療従事者を対象に研修会を開催した。

XVII-1 集学的治療開始にあたり行った調整

チーム構成員		対象となる患者
ペインクリニック部	医師 1名	・慢性疼痛で当院通院中の患者
精神科神経内科	医師 1名	・廃用症候群、動くことに恐怖心があり動いていない患者
公認心理師	2名	・鎮痛薬、ブロックに依存的な患者
理学療法士	1名	対象にならない患者
看護師	1名	・理解力が乏しい(認知症や物忘れがある)患者
		・モチベーションがなく継続できない患者
		・精神疾患併存が疑われる患者
		・疾病利得のある患者

XVII-2 活動内容

ペインクリニック医が慢性疼痛に対する集学的治療を必要と考える患者さんに対し、理学療法士による機能評価および公認心理師によるインタビュー面接、看護師による疼痛評価を行う。

カンファレンスで当該患者さんについての情報を共有し、チーム内で治療方針を立案する。理学療法士による運動療法、心理士による認知行動療法を患者個別のスケジュールで実施し、定期的で開催しているチームカンファレンスでさらに患者さんの治療方法や効果について評価する。治療効果については介入後1ヶ月・3ヶ月・6ヶ月で評価している。

XVII-3 2022年4月—2023年3月介入件数

対象患者	
件数	28
年齢(中央値)	15-71(43)
男女比	7:21

介入時の診断

診断名	件数
一次性慢性疼痛	10
慢性神経障害性頭痛	2
慢性頭痛および口腔顔面痛	6
慢性内臓痛	1
慢性筋骨格系疼痛	9

XVII-4 2023. 3. 15 研修会の開催

令和4年度厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業
近畿地区共催セミナー

参加無料

精神科医が伝える！
慢性疼痛に対する実践的アプローチ
—発達障害の観点も含めて—

日時：2023年3月15日[水] 18:00~19:00
場所：オンライン開催(Zoom)
対象：慢性疼痛に関わる、または興味のある医療従事者

主催：兵庫医科大学病院ペインクリニック部
共催：厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業

演者
岡山大学病院精神科神経科 助教
井上真一郎 先生

*当日は岡山大学運動器疼痛センターでの活動内容や、慢性疼痛患者の治療に対して、精神医学的な視点でお話しをいただきます。

参加申し込み方法
3月8日(水)までに、右記の下記のQRコードから参加申し込みをアクセルいただき、必要事項を記載の上お申込みください。(Googleフォームを使用しています)
QRコードが読み取れない場合は下記のURLよりお申込みください。
<https://forms.gle/GzRntrBL6v6>
お問い合わせ：兵庫医科大学病院ペインクリニック部 メール(pain-med@hyo-med.ac.jp)